

事業の背景・目的

オガサワラハンミョウは、平成20年に「絶滅のおそれのある野生動植物種の保存に関する法律」に基づく国内希少野生動植物種に指定されている。本種は小笠原諸島の兄島を唯一の生息地とし、生息個体数は非常に少ないと推定されている。伊丹市昆虫館では、平成23年から環境省関東地方環境事務所野生生物課よりオガサワラハンミョウ生息域外保全業務の委託を受け、本種の飼育業務を行った。令和元年度からは環境省生物多様性保全推進支援事業として、継続して本種の飼育を行っている。

事業の内容

- ・室温が年間22～24℃で安定している伊丹市昆虫館の飼育室内で、本種幼虫の飼育と蛹の管理を行った。また、当館の飼育室に設置したインキュベーター内で、成虫の飼育と繁殖を行った。
- ・生態展示室において、オガサワラハンミョウの幼虫を年間通して展示した。



得られた成果

- ・平成23年より累代飼育を重ねてきた系統は、幼虫の発育不調により途絶した（原因究明中）。しかしながら令和3年1月に父島の飼育施設から移送された本種の幼虫39個体より、今年度当館では7個体（5♂2♀）が羽化した。さらにそのうちの1ペアからは26個体の幼虫が得られた。本種の累代飼育を成功させることで種の保存に貢献できている。
- ・父島の飼育施設から令和3年10月に本種の幼虫167個体を受け入れ、現在飼育中である。
- ・飼育技術の改良と効率化をすすめるとともに、飼育データ（発育日数）の蓄積を行った。中でも、幼虫のエサとして冷凍コオロギを使用することで、飼育の効率化を図ることに成功した。
- ・年間12万人以上の来館者に生きたオガサワラハンミョウと当館の保全活動に関する展示を提供できたことは、教育普及において大きな効果があったと考えている。